

黒岩知事との“対話の広場”

神奈川県県民局くらし県民部情報公開広聴課 谷口 真一

神奈川県では、県民と知事が直接意見交換をする集会イベント「黒岩知事との“対話の広場”」を開催している。「人生100歳時代」を迎えるための対応として、個人、地域、行政はそれぞれ何ができるのか。平成28年度は、そのような議論のきっかけとなるように、「人生100歳時代の設計図」を年間テーマとし、各回ごとに個別テーマを設定して開催した。本稿では、“対話の広場”の概要、本年度開催した全8回の概要と、ゲストの主な発表内容や参加者との意見交換のまとめを紹介する。

1. 黒岩知事との“対話の広場”とは

「黒岩知事との“対話の広場”」は、本県の広聴事業の一つで、県民と知事が直接意見交換をする集会イベントである。情報公開広聴課が主管しインターネットで生中継配信も行う「黒岩知事との“対話の広場”Live 神奈川」と各地域県政総合センター等が主管する「黒岩知事との“対話の広場”地域版」があり、平成28年度は「Live 神奈川」を3回、「地域版」を5回、計8回開催した。

2. 平成28年度の“対話の広場”開催概要

年間テーマ：人生100歳時代の設計図

・黒岩知事との“対話の広場”Live 神奈川

開催日	個別テーマ	参加者数
10/17 (月)	社会参加について ～生涯現役社会の実現～	120 人
11/24 (木)	スポーツが育てる“生きがい” ～生涯を通してスポーツを楽しむには～	128 人
12/21 (水)	スマイルハッピーシティ☆ ～みんなで支えあう地域社会の 将来像～	132 人



・黒岩知事との“対話の広場”地域版

地域 開催日	個別テーマ	参加者数
県西 7/12(火)	「ちょこっと田舎」生活 ～未病の戦略的エリアへの移住～	142 人
横須賀三浦 9/27(火)	元気に暮らせる「食と運動」とは	133 人
川崎 10/25(火)	川崎発 新時代の人生設計図	112 人
湘南 11/2(水)	スポーツと健康長寿社会	215 人
県央 11/9(水)	ロボット技術が支える人生100歳時代 ～ロボットと共に歩む未来を目指して～	160 人



年間テーマである「人生100歳時代の設計図」に対して、さまざまな角度からアプローチを試みるため、県政の課題別、または各地域の実情に合わせて、個別のテーマを設定した。本県が掲げる「未病を改善する取り組み」に関連して、「食」、「運動」、「社会参加」につながるテーマが見られるのが特徴である。

3. ゲストからの事例発表

“対話の広場”では、ゲストによる個別テーマに関する事例発表等を聞いてから、県民との意見交換へと進めている。本年度も学識経験者や各取組みの実践者などのゲストにご参加いただいた。ゲストによる発表内容の例を、一部簡潔に紹介する。

- ・食を通じた健康づくりの地域ボランティアとして、赤ちゃんから高齢者までの健全な食生活を実践する食育活動に取り組んでいる。
- ・健康づくりには、「食」と「運動」の毎日の積み重ねが重要である。
- ・未病の改善につながるマラソン、ランニング事業を展開している。身体をケアしながらであれば、誰でも走ることができる。
- ・普段よりも10分多く身体を動かしましょう、という取組みを掲げ、地域に出向いて啓発活動などを行っている。
- ・スポーツとの関わり方は「する」、「見る」、「支える」があり得る。いろいろな形で心身の健康づくりに貢献できる。
- ・日頃から運動することが、未病の改善や認知症の予防につながる。生きがいを持って、そのために身体を動かすことで運動が持続できる。
- ・シニア世代の起業に備えた相談事業やレンタルオフィスの展開をしている。豊かな経験を活かして社会に貢献したいシニアが多い。
- ・退職後に「福祉美容」の分野に挑戦している。髪の毛を切ってあげると、それを見せたくて外出するようになるなどの効果もある。
- ・住みよい環境を求めて県西部に移住してきた。家族とともに充実した時間を過ごすことができ、地域への貢献もしようと思う。
- ・川崎地区でベンチャー育成とネットワークを担当し、科学技術を利用して新しい産業を作り出すことに取り組んでいる。
- ・人生100歳時代に向けて、生活支援ロボットの活用が不可欠。健康づくりや「いのち」を大切にすることにつながる技術を活かしたい。
- ・働く障がい者の収入を増やす試みとして、専門家の協力を得て、「売れる」商品づくりをしている。

さまざまな分野からゲストをお招きしているため、実に多様な内容が発表されている。ここではほんの一部しか挙げられないが、他にも各会場で、聞き応えがあり、意見交換を活発にしてくれる事例発表がなされている。

4. “対話の広場”における意見交換

意見交換では、10代の学生から90代の高齢者まで各世代にわたる参加者から、知事・ゲストへの質問、日頃自分たちが取り組んでいる事例の発表、県への要望などの発言があった。

「食」や「運動」について日頃の取組みが適切なのかどうかをゲストとディスカッションしたり、「未病の改善」につながる運動の実践例がたくさん出される一方で、「運動をしようとしても場所がない」などの悩みも聞かれた。また、ロボット等の新しい技術への期待感も示された。障がいのある方からは、「みんな違ってみんな一緒。不幸ではないが、不便は解消してほしい」とのご意見もいただいた。

中でも印象的だったのは、若い世代から、『人生100歳時代』を迎えるにあたり、自分たちにできることは何か」といった前向きな意識・考え方が提示されたことであった。



5. 最後に

本年度のテーマ「人生100歳時代の設計図」に対して、予想以上に多くの角度からのアプローチが可能だということが、ゲストの事例発表と参加者の多様な発言によって明らかになった。

“対話の広場”が、「人生100歳時代」、「未病の改善」等への意識が高まるきっかけとなっていれば幸いである。